資料2

Hirosaki・Goshogawara・Nishitugaru/AOMORI

弘前・五所川原・西津軽

青森県津軽地方

06

魅力　自然　歴史・文化　温泉・リゾート　芸能・スポーツ　まちめぐり・まち景観　体験・イベント



世界遺産「白神」の自然と地域の伝統を活かし滞在力を高める

青森・秋田県にまたがる世界遺産「白神山地」の広大なブナ林の散策、桜の名所として有名な弘前城と城下町めぐり、平成10年約80年ぶりに復活した五所川原の立佞武多（たちねぷた）等の多様な観光資源。そこに津軽三味線やねぶた祭りの伝統が息づく。個性豊かな「津軽」に魅了される観光客は年間約1,500万人（宿泊者数90万人強）。



白神山地美山湖

入込客数

平成14年(2002)	1,368万人
平成15年(2003)	1,522万人
平成16年(2004)	1,515万人
平成17年(2005)	1,544万人
平成18年(2006)	1,520万人

宿泊者数

青森県統計

平成14年(2002)	95．7万人
平成15年(2003)	97．3万人
平成16年(2004)	89．3万人
平成17年(2005)	98．5万人
平成18年(2006)	94．3万人

※弘前市、黒石市、五所川原市、鰺ヶ沢町、深浦町、西目屋村の合計

取組　PR・誘致活動　案内・情報提供　景観保全・環境整備　人材育成　体験・イベント開催　広域連携の促進

滞在力のある観光地

世界遺産「白神山地」



白神山地の体験

白神山地は、平成5年世界遺産に指定された。中核区域は入山規制され、周辺区域と隣接の津軽国定公園区域にてブナ林の散策が可能。西津軽地区の観光入込客数はこの5年で50万人増の約370万人となり、十二湖公園だけでも51万人の入込客数がある。鰺ヶ沢町及び岩木山麓周辺ではNPOにより廃校を活用した自然学校の取り組みを行っている。同NPOにより、自然体験プログラムの実施、インストラクター育成、地元農産品の販売や植林・間伐等森林の保護活動が実施され、都市との交流を造成している。

城下町弘前

弘前コンベンションビューローを中心に各種イベントを開催して情報発信を行うとともに、「ひろさき検定」や弘前城ボランティアガイドの活動も実施している。また、平成14年にリニューアルした弘前城近くの「津軽藩ねぷた村」では、ねぷた、津軽三味線、伝統工芸等が見学、体験可能となっており、修学旅行にも活用されている。城下町巡りには、市内100円均一の循環バスが便利である。



立佞武多

伝統の復活

五所川原市では、高さ約20mの立佞武多（たちねぷた）を復活させ、東北四大祭りに並ぶ約170万人の人出があり、また、常設展示と工房を兼ねる「立佞武多の館」で、観光客も製作行程に参加可能とし、年間約14万人の入館者がある。日銀調査では、5日間の祭りによる経済効果は約100億円とされている。

本場の津軽三味線

五所川原市の「津軽三味線会館」、弘前市の「津軽藩ねぷた村」等では、一流、若手による津軽三味線の演奏が毎日、実演され、力感あふれる叩き、繊細な弾き、生演奏の調べは聴衆を魅了している。また、繁華街では三味線演奏を楽しめる飲食店も多く、郷土料理、地酒と音楽が満喫できる。

旅情あふれる列車

田園地帯の約20kmをのんびり走る津軽鉄道では、冬期はストーブ列車が1日2本運行されている。車内には、ダルマストーブでスルメをあぶりながらの乗客の津軽弁での語らいがあり、車窓には銀世界が広がる。夏期は俳句の短冊をつけ風鈴列車となる。秋は駅員の育てた鈴虫の虫籠を乗せ鈴虫列車として運行している。また、白神山地沿線のJR五能線では「リゾートしらかみ」が運行されており、四季折々の白神の景観、日本海の夕日を堪能できるよう展望車両が用意され、車内では三味線演奏、津軽弁の語り部実演のイベントを楽しむことができる。

青森県弘前市商工観光部観光物産課
TEL：0172-35-1111　URL：http://www.hirosaki.co.jp/

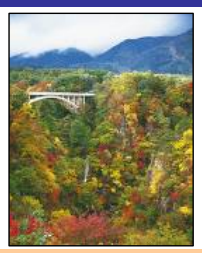
Naruko onsenkyo/MIYAGI

鳴子温泉郷

宮城県大崎市

07

魅力　自然　温泉・リゾート　体験・イベント　まちめぐり・まち景観



異業種連携のまちおこしを実践して魅力を高める

「鳴子ツーリズム」として地域全体の構想を明確化し、鳴子温泉郷を構成する五つの温泉地の観光振興事業を商店街活性化事業等と連携する。業種を越えた住民主体の取り組みは、地域活性化の原動力となっている。活気を取り戻した温泉街へ宿泊客の回復が見られる。



温泉郷を構成する五地区の一つ鳴子温泉

宿泊者数

宮城県統計

平成14年(2002)	77万人
平成15年(2003)	72万人
平成16年(2004)	81万人
平成17年(2005)	83万人
平成18年(2006)	80万人

取組　PR・誘致活動　案内・情報提供　景観保全・環境整備　人材育成　体験・イベント開催　広域連携の促進

滞在力のある観光地

アートとグリーンツーリズム



湯治と農業体験をむすびつけた「田んぼ湯治」

東鳴子温泉では、現代版湯治としてアートや音楽、映画との結びつきを提案している。若手作家との交流とアート作品の製作・展示や駅コンサート、映画祭などのイベントも開催されている。また、農業体験と湯治を組み合わせた「田んぼ湯治」も実施され、農、食、湯治を結びつけた季節毎の交流を企画している。

多彩な取り組みによる宿泊温泉地へ

病院での診療、リハビリと湯治をリンクした温泉療法プランは観光協会が主導して実施。旅館経営者が市民農園の運営にあたるなど、多彩な活動に地域の観光関係者が中心的に携わっている。



まちなかのミニパークでの足湯

商店街、大学、JRの協力

JR鳴子温泉駅からひろがる鳴子温泉では、商店街の活性化として「一店逸品」の店舗毎の特色づくりや空き店舗を活用した交流拠点を整備している。県立宮城大学のフィールドワークから提案された「下駄も鳴子」をキャッチフレーズにそぞろ歩き、湯めぐりも実施。温泉の楽しみに加え、商店街の楽しみも。JR等の協力もあり、鳴子温泉地区で80万人台の宿泊者がある。



鳴子こけしの絵付け体験

鳴子ツーリズム研究会

平成16年に民間主導により、異業種からなる「鳴子ツーリズム研究会」を組織し、現在、温泉郷を構成する五つの地区から55名が参加している。従来の観光、商業、農業等毎の取り組みから横断的な取り組み体制を構築し、「鳴子ならでは」を追求、実践、情報発信し、旅人との交流を通じた住民の成長、共生を目指す。同研究会のもと各地区が特色を活かし旅館、温泉街の活性化にとどまらず地域、産業の活性化・賑わい造成に一体となった取り組みを実施している。地域活性化の優良事例として平成19年総務大臣から表彰された。

広域観光ニーズへの対応

従来，鳴子温泉郷内だけで行ってきた「湯めぐり手形」「湯めぐりチケット」を，県境を越えて山形県最上町にも拡大。また、鳴子温泉郷と同様に古くからの湯治場である山形県肘折（ひじおり）温泉、秋田県秋の宮温泉と連携して「渡り湯治」という新たな提案をし、長期滞在を視野に入れ情報交換、配信を実施している。

宮城県大崎市鳴子総合支所観光農林課
TEL：0229-82-2026　URL：http://www.city.osaki.miyagi.jp/guest/kanko/shiseki/narugo-onsen.html

資料2

Tazawako・Kakunodate・Tamagawa/ Nyuto onsenkyo/AKITA

田沢湖・角館・玉川/乳頭温泉郷

秋田県仙北市

08

魅力　自然　歴史・文化　温泉・リゾート　体験・イベント

温泉・伝統・文化など多彩な魅力を包括した取り組み



「日本一の水深を誇る田沢湖」「武家屋敷や桜の角館」といった観光資源を核に、地域資源を繋ぐ新たな観光ツアーを行うとともに、地域が持つ伝統・文化・芸術等の多様なメニューによる体験学習に取り組み、滞在力の向上に努める。
　湯治客が多く訪れる玉川温泉郷の魅力に加え、秘湯として人気の乳頭温泉郷では、温泉・健康・美容にちなんだ多彩なプログラムを実施することで両温泉郷あわせ約35万人の宿泊者数を維持。



冬の乳頭温泉郷

入込客数

平成14年(2002)	600万人
平成15年(2003)	659万人
平成16年(2004)	631万人
平成17年(2005)	614万人
平成18年(2006)	623万人

※仙北市入込客数

宿泊者数

平成14年(2002)	34万人
平成15年(2003)	36万人
平成16年(2004)	38万人
平成17年(2005)	38万人
平成18年(2006)	35万人

※玉川温泉郷・乳頭温泉郷宿泊客数

取組　PR・誘致活動　案内・情報提供　交通アクセス　体験・イベント開催

滞在力のある観光地

二次交通の整備と新たな観光ツアー



八津・鎌足のカタクリ群生地

　角館のサクラ、刺巻湿原の水芭蕉、八津・鎌足のカタクリと3つの花の名所をめぐる「花紀行バス」を合併前の旧町村で構成する広域観光協議会が運行していたが、年々観光客が増加し平成11年からは民間バス会社が運行している。
　平成14年には「あきた二次交通を進める会」が実施する秋田空港発着の予約制乗合タクシー「角館・田沢湖・乳頭温泉郷号」が運行され、角館や田沢湖での観光や、乳頭温泉郷への宿泊を目的として平成18年は約5,500人の利用があった。

多様なメニューによる学習体験の提供

　平成16年度より旧角館町(現仙北市)では学習旅行支援室を立ち上げ、地域の特徴を最大限活用した伝統工芸品の製作体験(樺細工、イタヤ細工)や、方言研修など27種類の多様な体験学習の手配を一元化し、希望者が体験しやすい環境を整備した。また、たざわこ芸術村では劇団わらび座によるミュージカル観賞後、体験学習者が実際に踊りを体験できるプログラムが人気を呼び、現在では全国から予約が殺到。
　グリーンツーリズムも県内各地の農家と連携して行っており、30年以上の実績を誇る。



農業体験の田植え

乳頭温泉郷「湯・健・美プラン」の実施

　乳頭温泉組合の若手経営者が連携し、従業員の意見を取り入れた 乳頭温泉郷「湯・健・美プラン」を新たに企画して温泉・健康・美容にちなんだ多彩なプログラムを実施中。
　7軒の源泉・泉質が異なる「湯」を楽しんでもらうため、宿泊者限定で7軒の温泉が味わえる「湯めぐり帖」を販売。温泉の美容効果を自宅でも味わってもらう為、期間限定で宿泊者にボトルを提供。また、冬のブナ林でのスノーシュー散策という健康に配慮した散策プログラムを実施。
　平成20年からは夏のブナ林散策などを新たに追加し、約30の散策プログラムを計画している。



紅葉の乳頭温泉郷

宿泊利便向上のための雪上車運行

　降雪期には、新玉川温泉から玉川温泉までの道は5mを超える雪に覆われ、全ての車両の通行が不可能となる。これのアクセス確保のために雪上車を使用することによって、お客様の送迎を行い、宿泊利便の向上を図っている。

秋田県仙北市産業観光部観光課
TEL：0187-43-3352　URL：http://www.city.semboku.akita.jp/

Aizuwakamatu・Kitakata/FUKUSHIMA

会津若松・喜多方

福島県会津若松市、喜多方市

09

魅力　自然　歴史・文化　温泉・リゾート　まちめぐり・まち景観　体験・イベント

まちめぐりの魅力向上と受入体制の整備



鶴ヶ城や白虎隊という定番的な会津観光から、まちめぐりを誘う会津若松・七日町のまちなみ、喜多方の蔵等両市の中心部への魅力向上に取り組む。加えて、体験型観光、広域的なメニューを充実。地域一体となったキャンペーン・イベント活動の継続により、両市の入込客数の合計は350万人を越え、地域の観光を牽引。



会津のまちとまちめぐり(七日町駅カフェ)

入込客数

福島県統計

平成14年(2002)　277万人
平成15年(2003)　281万人
平成16年(2004)　316万人
平成17年(2005)　325万人
平成18年(2006)　358万人
※　会津若松市及び喜多方市の市街中心

取組　PR・誘致活動　案内・情報提供　景観保全・環境整備　体験・イベント開催　広域連携の促進　交通アクセス

滞在力のある観光地

まちめぐりの魅力を高める



喜多方の蔵を活用した観光施設

　会津若松市の七日町通りでは、趣を失っていた歴史的な建築の外観を昔の風情に再生し、七日町駅カフェ、会津ブランド館等に整備。買物客が乏しかった商店街は観光客を中心に平日約2千人に回復。商店街の女将さんたちで構成する「アネッサクラブ」による「のきさきギャラリー」や「四つのどうぞ(イス、お茶、トイレ、荷物預かり)運動」を展開し、ふれあいのある散策の拠点となる。また、喜多方市の蔵を、美術品、民芸品の展示や観光案内所、土産店、飲食店に活用することで、蔵とラーメンのまちとして定着した。平成19年の、会津若松市街地への入込客数は前年比12.9%増と地域を牽引。

魅力ある観光の足

　会津若松、喜多方にはレトロ調バス、タクシーが運行。会津若松市内の周遊バス「ハイカラさん」「あかべえ」は、市内めぐりに最適。喜多方市内の周遊バス「ぶらりん号」やロンドンタクシーは天ぷら油の廃油を利用したバイオディーゼル燃料により環境対策にも取り組んでいる。また、2日間乗降フリーとなる「会津ぐるっとカード」がまちめぐりに活用され、年間6千枚の売上実績があり、安心して手ぶらの観光ができるよう、宿泊先への手荷物配送サービスも実施している。



レトロ調バス

伝統と新しさ・多彩な食

　伝統料理「鰊の山椒漬」や、帆立の貝柱のだしに里芋や茸等が入った「こづゆ」等、北前船で運ばれた産品が使われる。会津の歴史に思いをはせながら、どこか懐かしく、優しい味わいがある。磐梯山麓で育まれた名水、気候は醸造業を発達させ、味噌、醤油、名酒の産地。名水はミネラルウォーターとして、また、蕎麦や喜多方ラーメンの麺を生む。他にも茶道の伝統と間食を楽しむ習慣があり和菓子も多く、多種多様な食の楽しみを提供している。



会津の郷土料理「こづゆ」

広域観光への対応

　会津若松市と周辺市町村には、古寺、名刹が多く「仏都会津」として、特別拝観、講話と乗合タクシーを結びつけてPR。会津全域の広域観光に加え、乗合タクシーの運行により山形県米沢市・置賜地方とも連携を強める。首都圏への鉄道アクセスと、両地域の温泉を活用し、宿泊滞在客の増加を目指す。

極上の会津プロジェクト協議会　事務局／会津若松市観光課
TEL:0242-39-1251
URL：http://www.aizu-furusato.com/gokujo/index.php

資料2

Towadako・Oirase/AOMORI

十和田湖・奥入瀬

青森県十和田市

Popular Destination For Foreign Travelers

#06

旅行者を魅了する新緑・紅葉が映える湖と渓流の自然美



十和田湖の湖面には周囲の景観が映え、奥入瀬渓流は清流と森林の幻想的な景観。冬期間も雪景色、打上花火、スノーランプによりファンタジックなイベントを実施。十和田市だけを見ても、平成18年には前年比2倍近い18,000人の外国人が宿泊。



招聘事業により十和田湖を訪れた観光関係者

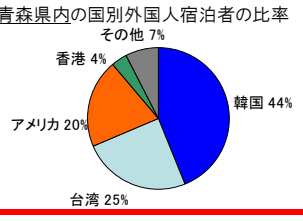
外国人宿泊者数

青森県観光統計

平成16年(2004)	1．9万人
平成17年(2005)	2．3万人
平成18年(2006)	3．5万人

※十和田市・三沢市の合計

青森県内の国別外国人宿泊者の比率



魅力　自然　温泉・リゾート　芸能・スポーツ　体験・イベント

外国人で賑わう観光地

「山は富士、湖は十和田湖」

火山噴火により形成されたカルデラ湖。周囲46km透明度9mを誇る。周辺の森林の姿を湖面に映し出す。明治の詩人は「山は富士。湖は十和田湖」と絶賛。明確な四季の美しさは、台湾等の海外観光客からも高評価。



四季の彩りを映す十和田湖



奥入瀬渓流

自然が織りなす渓流の美しさ

十和田湖を源流とする唯一の河川、奥入瀬川上流の約14kmの渓流。新緑、紅葉の美しさは景勝地として有名。湖とともに特別名勝、天然記念物、国立公園として国から重複指定。

取組　PR・誘致活動　案内・情報提供　人材育成　体験・イベント開催　広域連携の促進

東北の代表的な訪問地

十和田湖は、東北周遊の代表的なビューポイント。台湾から道南・北東北、韓国から函館・青森等のコース設定に欠かせない地域。十和田とゴルフ、スキーが青森県の海外へのセールスポイント。青森～ソウル定期便の搭乗率は、50%台から60%強と好調。

「十和田湖冬物語」

清冽な冬空に打ち上げられる花火とスノーランプによる光の演出。湖畔の散歩路、遊覧船や「乙女の像」もライトアップ。ファンタジックな景観の他に、乗馬や雪上車の体験、郷土料理「きりたんぽ」や炉端焼でおもてなし。宿泊は、周辺に温泉地や大型宿泊施設が存在。



十和田湖冬物語の花火打ち上げ

十和田の名産とセールス

明治に養殖に成功した名物「ヒメマス」は、塩焼きにすると淡泊な味わいがあり好評。資源管理の課題もあり、新しい名産品開発に取組。地ビールや十和田和牛等の製品化。

市は、グリーンツーリズムを推進。十和田・奥入瀬の散策とあわせ、台湾へセールス。修学旅行160名の誘致に成功。

国際化対応研修の開催

アジアからの観光客が増加しており、十和田市では国際化対応研修を実施。観光関係従事者をはじめとした40名が受講。2010年の新幹線七戸駅が開業も間近となり、交通利便が高まることによる一層の外国人観光客の来訪も想定し準備。



十和田市での国際化対応研修

十和田市観光商工部観光推進課
TEL 0176-23-5111　URL http://www.net.pref.aomori.jp/city/towada/